

／年間・4坪)を開設運営しており、関係者の勉強会でソーシャルファームの提唱者である新井利昌氏(埼玉福興社長)が講演。

④活きいきこっとな村(栃木県鹿沼市)

高齢者デイサービス施設と久井亭の休日を使い、ここを拠点として、障がいのある人や、引きこもりの人、地域の人と一緒に、綿花栽培や収穫した綿をつかったアクセサリーの製作販売などを行っている団体。地域包括ケアシステムを担う地域共生ステーション的な拠点づくりを考えている。

●特例子会社

①ふじっこ青空ファーム(滋賀県草津市)

ふじっこ青空ファームは、全国を対象とする給食配食会社である富士産業(社員総数1万7千人)の会社内組織であり、無農薬野菜販売、社員研修受け入れ、社員向け農園運営を行っているが特例子会社化を検討したい。

②新潟市アグリサポートセンター

農家と障がい福祉施設のマッチングや、委託契約のサポートをしている農福連携の中間支援組織。関係者向けの定期セミナーで農業分野の「特例子会社」の先導的取り組みをしているパーソルサンクス(株)の中村淳社長を予定していたがコロナウィルスの影響で中止。

●農家側からの障がい者雇用リクエスト

①高田圃場(上越市)

青年就農者3年目の農家。地域に多く存在している稲作農家の転作畑を受入れ規模拡大による収益拡大を図る上で近所の福祉事業所から施設外就労として障害者を受け入れ

8)学校教育等の食育

●東京都内の小中学校での授業(総合学習、社会科等)

東京都内の小中学校で、江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂代表を中心にしたグループが江戸東京野菜を起点に、地域の歴史・地理、食育、実地栽培に広がる授業支援に取り組んでいる。

①荒川区立尾久宮前小学校

4年生2クラス56名 荒川区(旧名三河島)の伝統野菜「三河島菜」最初は小学校の栄養士さん「地元野菜を食べさせたい」という協力依頼からスタート校庭敷地1m×40mの空地利用で栽培、将来は学校給食での利用を考えている。

②北区立稲付中学校

1年生4クラス140名 地元の伝統野菜(滝野川ゴボウ、滝野川ニンジン、滝野川カブ、練馬大根)、中山道との関係等を講義。校庭敷地10m²で無農薬栽培

③江東区立第二亀戸小学校

4年生3クラス100名 地元伝統野菜(亀戸大根)の歴史、都市農業について講義校庭の花壇を利用して栽培、早春に収穫し、晩秋に前の年度の4年生から「命の伝達式」を行い、播種する。

④新宿区立西新宿小学校

5年生2クラス58名 地元伝統野菜(内藤カボチャ、内藤唐辛子)、都市農業の講義実地栽培(校庭の花壇7.2m²)、地元農家との交流

秋の収穫時に新宿御苑レストランのシェフの出前授業を合わせて実施し、収穫野菜を使ったプリン、ピクルスを作り、皆で食した。

⑤練馬区光が丘秋の陽小学校

3年生2クラス67名 地元伝統野菜の練馬大根の話をし、種まきを指導。

以前は、周辺農家の畑を学校農園として借りていたが、農家に相続が発生し、借りることができなくなってしまったため、校庭の花壇を利用している。

なお、隣接して「練馬区立秋の陽公園」があり、公園内の水田では、区内の各校が田植えをしており、同校の5年生ももち米の苗を植えている。

⑥足立区の各小学校での取組

足立区の江戸東京野菜は千住葱。足立区では区農業委員会が全面的にバックアップし、千住葱への理解を深めるため、各小学校の4年生を対象にした授業の中で「命をつなぐ 千住葱栽培授業」として、千住葱の栽培体験を取り入れている。

年間の授業内容は、6月の種の伝達式（+講演）から始まり、その後の播種、定植、翌年2月の収穫、4月の種採取という流れであり、11名の農業委員が夫々3校ずつの小学校を分担して、全体の段取りサポート、資材提供、播種・定植等の指導、圃場管理（1回/週の見回り）を行っている。

以下の学校の「種の伝達式」に合わせた講演者としてアドバイザーを派遣し、地域の地理・地形と歴史、ネギの種類、千住葱の由来、実際の栽培方法を説明・指導した。

イ.保木間小学校 4年生63名「千住ネギ～みんなで育てよう」

ロ.栗原北小学校 4年生107名「千住ネギ～みんなで育てよう」

ハ.千寿双葉小学校 4年生104名「千住ネギ～みんなで育てよう」

ニ.西伊興小学校 4年生99名「千住ネギ～みんなで育てよう」

⑦新宿区立柏木小学校

4年生 1クラス40人 地元伝統野菜の鳴子瓜（真桑瓜の一種）の栽培方法の指導

校庭の一角5㎡で栽培、秋に収穫し栄養教諭の指導にのり下フルーツポンチとして食べる。

⑧昭島市拝島第二小学校

3年生3クラス合同 87名 昭島市の副読本「昭島市の農業」により市の地形、歴史、地元伝統野菜の「拝島ネギ」、都市農業について講義

⑨江東区立第5砂町小学校

4年生3クラス合同授業 120名 地元伝統野菜の「砂村一本ネギ」の栽培・収穫の授業。

校庭の一角（1m×2～3m）を利用して栽培。もともとは栄養教諭が始めた授業。

⑩八王子みなみ野小学校

4年生3クラス113名 江戸東京野菜の話と地元伝統野菜「高倉大根」の栽培収穫の指導

⑪小金井市立東小学校

2年生3クラス 102名 一般的な食育講話「野菜を好きになる秘密」

⑫東京都市大学附属小学校ミクニレッスン

地元食材にこだわりが強い三國清三シェフは、テレビ番組「ようこそ先輩」出演をきっかけに、東京都市大学附属小4年生を対象に、保護者も参観した「ミクニレッスン」を行っている。（年12回、プランターで野菜を育て、日本の食文化や食事のマナー、地域食材について勉強し、最後に収穫した野菜で調理実習と試食を行う。）

アドバイザーは子供たちに、東京都の農業と江戸東京野菜の説明、ベランダのプランターを使って調理用野菜（スイスチャード、サニーレタス、金町こかぶ、安藤小松菜、水菜等）の種まき、水やりの仕方等を指導

●小中学校での授業(新居浜)

教育長が NPO 法人大地といのちの会理事長吉田俊道氏の話聞いて感銘受けたのが契機となり、その後毎年幾つかの小中学校で吉田氏による講演会を実施。また、それに合わせて新居浜市が主催して市民農園参加者への講演、栽培指導を吉田氏に依頼している。

(市民農園の項に記載)

吉田氏の「生ごみリサイクル・菌ちゃん野菜作り」の提案：

生ごみを使った土づくりをすると元気な有機野菜が育つ。そのことを通じて、汚いと思っていた生ゴミからきれいでおいしい野菜ができる即ち「すべてのものは土から生まれて土に還る」ことを実感してもらう。

①泉川小学校運営協議会 2年生 99名

②中萩中学校 PTA 3年生 173名

●特別支援学校の農業実習での技術指導

①都立あきる野学園（東京都あきる野市）

高1～高3の身体障害児15名を対象とした学習（自立活動）で、地元伝統野菜である「ノラボウ菜」の栽培、収穫指導

テラスのプランターを利用して栽培している。

②板橋特別支援学校

高1～高3の知的障害児合同の農業班10名を対象に地元伝統野菜である「志村みの早生大根」とブロッコリーを栽培、沢庵づくりも指導。12月の文化祭での販売。

校庭に90㎡の農園と2階建て屋上に75㎡（深さ1m）の農園がある。

もともと熱心な先生（既に転勤）がはじめたプログラム。

●保育園等

①にじいろ保育園（練馬区）

3歳児～5歳児 60名

給食用野菜の購入や芋ほりイベント等、日頃縁の深い隣地の保育園オーナー農家が園児に自らの畑でカブの収穫体験をさせ（給食に利用）、その後「野菜の話」を講話

以下の2箇所は NPO 法人大地といのちの会理事長吉田俊道氏の話聞いて感銘受けた園の関係者が企画した講演会である。

②すみれ保育園（男の子育てサークル DADDY 主催）

③難波愛の園幼稚園

園児と保護者 90名

園内にミニ畑、ビオトープ、水田がある。

以下の5箇所は大阪で果物屋を営む山口直克氏の児童向け食育の取組を知った園の関係者からの依頼による事例である。

④相川保育園（みおつくし福祉会）

4歳児、5歳児 58名